

北上ハイテクペーパー(株)インタビュー(H27.9.9)について

岩手県内陸部に立地し、釜石港、大船渡港を利用している北上ハイテクペーパー(株)に震災後の港の利用状況等についてお伺いしました。

同社は、創業以来岩手県内の森を中心に、広葉樹で国産パルプを作っており、この国産パルプを原料とし、写真プリントのベースペーパーや、家庭紙としてティッシュやトイレットペーパーの生産をしています。

北上ハイテクペーパー(株)
(左から)馬場事務部長、河合技術
環境部長、麻生氏、菊池氏



北上ハイテクペーパー(株)

～インタビュー要旨～ (聞き手:釜石港湾事務所長 小澤 敬二)

Q:企業概要について教えてください。

写真用印画紙や写真用インクジェット用紙の材料となる写真用原紙を約5万t/年、各種製紙原料となるパルプを約5万t/年、ティッシュペーパーやトイレットペーパーなど(家庭紙)を約9千t/年出荷しており、主力は写真用原紙である。原材料としては、国産材を約20万t/年を使用している。国産材を原材料としているのは、現在は自社のみ。

Q:写真用原紙は国内向けか、海外向けか?

写真用原紙は、元々国内向けメインで出荷していた。しかし特殊な紙なので、世界的に生産している社が少ない。そのため、シェアを増やす目的で海外進出した。現在では生産量の約50%を輸出している。またIT化の進展による紙需要の低迷により、世界的に需要が減少しており、現在ではピーク時の1/3まで落ち込んでいる。国内の需要は、ピーク時の半分以下になっており、自社の生産は、他社との競合で増減を繰り返している。

Q:輸送先と輸送経路は?

輸出先は、主に米国(チャールストン港など)と欧州(ロッテルダム港)。輸送モードは船便で、40ftコンテナを利用しており、利用船社によって、仙台塩釜港、釜石港、大船渡港を利用している。



釜石港でのコンテナ荷役状況



大船渡港でのコンテナ荷役状況

Q:陸送で京浜港ダイレクトというケースはあるのか？

やれないことはないが、陸送費が高くなるため、どうしても急ぎで必要になったときのみである。またJR貨物の選択肢も一度トライしてみたが、貨物駅から一度トレーラーに積み替える必要が生じるため、結局コスト高となり利用していない。

Q:物流の課題、工夫の点は？

物流上の大きな課題はないが、輸送に6週間かかるので、現地にもストックするようにして、急な需要にも対応することができるようにしている。また、自社は24時間体制で動いており、合わせて外部倉庫にも24時間対応して頂いている。更には40ftコンテナの積載効率を最大限活用できるように製品の仕様、養生方法を工夫している。

Q:今後の運営方針は？

震災復興のときから釜石港を利用しており、岩手県内で生産した貨物は、岩手県内から出したいという気持ちはある。しかしビジネスとしてコストが成り立たないと仙台塩釜港に流れてしまうので、そうならないように、どのようにしたら岩手の港のコストを抑えられるか、いろいろ模索しているところである。

Q:国際物流、特に、コンテナ物流に関する期待・要望は？

本船が週に1便なので、そこに確実に接続してもらえれば、フィーダー船の便数はそれほどなくていいと考えている。しかし、1日にバンニングできる量が決まっているため、現在、内陸でのバンニング作業スケジュールに合わせて、週末寄港しているフィーダー航路の曜日をずらすことを要望している。

馬場事務部長、河合技術環境部長、麻生様、菊池様 お忙しいところ
インタビューさせて頂き、ありがとうございました！